



IYC2025ニュース第6号

2024年12月19日発行

編集
・
発行

2025国際協同組合年全国実行委員会 <https://www.japan.coop/iy2025/>

事務局 一般社団法人 日本協同組合連携機構
東京都新宿区市谷船河原町11番地 飯田橋レインボービル5階
E-mail: iyc2025@japan.coop TEL: 03-6280-7254



【contents①】

- ① 2025国際協同組合年キックオフイベント オンライン参加のご案内
- ② 2025国際協同組合年広報資材・ノベルティグッズ購入・活用をお願い
- ③ 2025国際協同組合年広報用データを提供します
- ④ 「2025国際協同組合年ロゴ(日本語版)使用にあたっての留意事項」を改定しました
- ⑤ 「2025国際協同組合年ロゴに関するよくある質問(FAQ)」の公開について
- ⑥ 2025国際協同組合年への国連事務総長メッセージビデオ(日本語字幕)を公開しました
- ⑦ 2025国際協同組合年全国実行委員会代表・副代表の年始動画の提供について
- ⑧ 2025国際協同組合年に賛同する個人・団体の名簿を公開しました

【contents②】

- ⑨ 2025国際協同組合年事業を一覧で見られるようにしました
- ⑩ 協同組合振興研究議員連盟総会に協同組合の振興に向けた国会決議の採択を要請しました。
- ⑪ SNSを活用した情報発信を始めます
- ⑫ 2025 国連国際協同組合年、ニューデリーでスタート
- ⑬ 全国各地の2025国際協同組合年の取り組み
 - 徳島県で第3回賀川豊彦ゆうあいフェスタ開催～多彩な催しに加えJCAから講演も～
 - 福島県で2025国際協同組合年認定事業「LOVEで始めよう！IYC～まずはお互いを知って学ぶことから～」が開催されました
 - 埼玉県で「2025国際協同組合年埼玉実行委員会」が発足～47団体で結成～
 - 労済労連第16回重点課題討論集会～こくみん共済coopグループの労働組合執行部にIYC2025の取り組みを呼びかけ～
 - 和歌山県生協連 第34回生協大会で講演

①2025国際協同組合年キックオフイベント(2月19日) オンライン参加のご案内

国連は、2025年を国際協同組合年（International Year of Cooperatives : IYC）に定めました。2025国際協同組合年(IYC2025)のスタートを日本全国の協同組合関係者がアジア太平洋地域の協同組合の仲間とともに祝うとともに、「2025国際協同組合年をどのように捉え、進めるのか」について深め合い、共有し、活動方針を確認するキックオフイベントを開催します。

2025国際協同組合年の取り組みを、それぞれの協同組合でより豊かに広げていくために、ぜひともご参加ください。

1. 日時：2025 年 2 月 19 日（水）13:00～16:00

2. 会場：国連大学ウ・タント国際会議場（東京・青山）

3. 主催(共催)：2025国際協同組合年全国実行委員会、国際協同組合同盟アジア太平洋地域（ICA-AP）、国際労働機関（ILO）駐日事務所

4. 参加形態：Zoom によるオンライン配信

5. 申込方法：こちらのフォームから2月14日（金）までにお申し込みください。<https://ws.formzu.net/fgen/S90394913/>



*2月18日(火)までにZoomのURL、資料等を頂いたメールアドレスにお送りします。

6. 内容(変更になることがあります):

- 開会あいさつ: 山野徹 IYC2025 全国実行委員会代表 (JCA 会長/JA 全中会長)
- グテーレス国連事務総長ビデオメッセージ
- 日本国政府あいさつ
- 協同組合振興研究議連会長あいさつ
- アリエル・グアルコ ICA 会長ビデオメッセージ
- ヤダフ ICA-AP 会長あいさつ
- 高崎真一 ILO 駐日代表あいさつ
- ショート・プレゼンテーション「IYC2025 の意義」: シメル・エシム ILO 協同組合・社会的連帯経済ユニット長
- ICA-AP 会員国の活動計画紹介
- ICA-AP 青年代表および日本の大学生協からのプレゼンテーション
- 県域協同組合連携組織からの「IYC2025 をどのように捉え、どのように進めるのか」報告
- 組合員・役職員による「私と協同組合」「協同組合があって良かったこと」「こんな協同組合にしたい」「私にとってのIYC2025」動画(短時間)の上映
- IYC2025 全国実行委員会行動提起
- 閉会あいさつ: 新井ちとせ・ICA-AP 理事 (JCA 理事/日本生協連副会長)

7. その他: 当日の内容は後日YouTubeにて配信します。視聴方法は2025国際協同組合年全国実行委員会のウェブサイトにてご案内します。

<https://www.japan.coop/iyc2025/>

②2025国際協同組合年広報資材・ノベルティグッズ購入・活用のお願い

『IYC2025ニュース第4号』にてご連絡しております広報資材・ノベルティグッズにつきまして、12月より第2次受注を開始いたしました。また、第1次受注分の納品時期や単価等も確定いたしましたので、ご案内申し上げます。

1. 注文・納品・支払い等

(1) 受注と納品 (一社)家の光協会が受注から納品、代金請求までを一括して行います。受注と納品は下記のスケジュールで大きく2回に分けて実施します。

時 期		第 1 次	第 2 次	備 考
2024 年	12月2日		受注開始	第2次は1月末締切・2月下旬納品が基本となりますが、2月下旬以前
	12月20日		再案内	

	12月24～ 25日	納品（発送）		にお手元に必要な場合は、注文時に備考欄へその旨をご記入ください。
2025 年	1月31日		受注締切	可能な範囲で対応いたします。
	2月下旬		納品（発送）	
	以降も注文可能ですが、在庫が無くなり次第、受付終了予定となります。 なお、第2次納品以降、発注希望の声が多くあった場合には、第3次受付を実施することも検討しています。			

※第1次納品分の発送日は、12月24日（火）～25日（水）を予定しております。到着まで今しばらくお待ちください。

※第1次のタペストリー受注分については、後述の通り、別送で1月中下旬のお届けを予定しております。詳細が確定次第、該当団体宛てにご連絡いたします。

（2）代金の支払い

送料は別途かかります。また、納品とは別に家の光協会より請求書が郵送されますので、指定の金融機関に代金をお振込みください（クレジットカード決済不可）。

（3）変更・キャンセル

受注生産の都合上、注文後の変更やキャンセルを承ることができないため、事前に十分なお検討をお願いします。

（4）単価一覧（税別）

広報資材	バッジ	名刺用ロゴシール	ポスター	フライヤー	タペストリー
	185 円	75 円	110 円	45 円	20,000 円
ノベルティグッズ	クリアファイル	ノート	ふせん	ステッカー	ストラップ
	180 円	150 円	220 円	140 円	410 円

（5）注文方法

2025国際協同組合年全国実行委員会ウェブサイトの以下のバナーからご注文をお願いします。 <https://www.japan.coop/wp/16893>



2. タペストリー発送遅延のおわびと対応について

タペストリーにつきまして、第1次納品分のご提供を延期することとなりました。

発注いただきました団体の皆さまにおかれましては、お待たせすることとなり誠に申し訳ございません。他の商品は予定通り発送、タペストリーは1月中下旬を目途に後日別送でお届けいたします。なお、タペストリーを別送することにより追加で発生する送料はJCAが負担します。

③2025国際協同組合年広報用データを提供します

2025国際協同組合年全国実行委員会は、IYC2025の取り組みを広く周知するため、学習資材や広報資材を提供しています。以下の広報用データを提供いたしますので、各協同組合でのご活用をお願いします。

1. フライヤー

1ページ目は、暮らしの中にある協同組合を表現したキービジュアルを活かし、2025国際協同組合年制定の社会的背景について記載しています（ポスターと同一デザイン）。2ページ目には、「国際協同組合年とは」や2025年の取り組みを進めるためのポイントを記載しています。配布や掲示、電子看板への掲載等で広くご活用ください。ダウンロードはこちら

https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2024/12/IYC2025_flyer.pdf



イラストレーター：榎本 直哉 氏 <https://i.fileweb.jp/enomotonaoya>

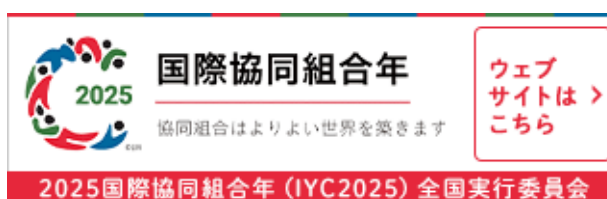
2. ウェブサイト案内バナー

「2025国際協同組合年全国実行委員会ウェブサイト」を各協同組合のウェブサイトで広報していただくためのバナーです。各ウェブサイトを訪れた人へ向けて、2025国際協同組合年（IYC2025）や全国実行委員会の取り組みをともに発信しましょう。ぜひバナーの設置をご検討ください。

「468 × 60」



「320×100」



「336×280」



3点の一括ダウンロードは

https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2024/12/IYC2025_3sizes_banner.zip

※「2025国際協同組合年（IYC2025）全国実行委員会ウェブサイト

<https://www.japan.coop/iy2025/>」に直接リンクするよう、設置をお願いします。

※別サイズの作成が必要な場合には、随時お問い合わせください。

④「2025国際協同組合年ロゴ(日本語版)使用にあたっての留意事項」を改定しました

2025国際協同組合年ロゴをいっそう積極的にご活用いただくために、「2025国際協同組合年ロゴ（日本語版）使用にあたっての留意事項」内の以下の文言（下線部）を改定しました。

【改定前】

（１）IYC2025ロゴは「2025国際協同組合年」を示し説明するために使用します。自己宣伝のみまたは直接的な利益獲得の目的では使用しません。

※商品のパッケージや、カタログで商品・サービスを直接案内しているページなどには使用しないこととします。

【改定後】

(1) IYC2025ロゴは「2025国際協同組合年」を示し説明するために使用します。自己宣伝のみまたは直接的な利益獲得の目的では使用できません。

※商品パッケージへの使用は不可とします。カタログやフライヤー等の商品・サービスを案内しているページへの掲載は、販売促進（商品紹介）と直接紐づいておらず、2025国際協同組合年についての説明が併記されている場合に限り、使用可とします（ロゴ単体での使用は不可）。

⑤「2025 国際協同組合年ロゴに関するよくある質問 (FAQ)」の公開について

2025国際協同組合年ロゴに関しこの間いただいたお問い合わせ内容を「よくある質問」として抜粋し、2025国際協同組合年全国実行委員会ウェブサイト公開しました。

https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2024/12/IYC2025LOGO_JP_FAQ.pdf

2025国際協同組合年ロゴに関する よくある質問(FAQ)

【使用にあたって】

Q. 日本語版ロゴデータはどこから入手すればよいですか？

A. 右記のリンクよりダウンロード可能です。

【.jpg】 https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2024/11/IYC2025LOGO_JP_jpg.zip

【.ai】 https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2024/11/IYC2025LOGO_JP_ai.zip

※.aiはAdobe Illustrator用のファイル形式

Q. 使用にあたっての注意事項はありますか？

A. 【2025国際協同組合年ロゴ（日本語版）使用にあたっての留意事項】をご確認ください。

https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2024/12/IYC2025LOGO_JP_consideration.pdf

【ロゴ使用の申請について】

Q. ロゴの使用には申請が必要ですか？

A. 以下の組織に所属の方は、申請せずにロゴを使用することが可能です。

＜2025国際協同組合年全国実行委員会の構成団体、日本協同組合連携機構（JCA）の会員組織、同機構会員組織に加盟する単位協同組合・関連会社等＞

※ 2025国際協同組合年全国実行委員会が代表して申請し、承認を得ています。

Q. 上記団体・組織以外がロゴを使用したい場合、どうすればよいですか？

A. 2025国際協同組合年全国実行委員会が「2025国際協同組合年事業」として認定・後援することでロゴが使用可能になります。

※ なお、この認定・後援には、2025国際協同組合年全国実行委員会申請と承認が必要となります。「2025国際協同組合年事業の認定・後援」の申請に関するご案内はこちら

<https://www.japan.coop/wp/16997>

【使用場面について】

Q. 販売商品のパッケージロゴを使用することは可能ですか？

A. 商品パッケージへの使用は不可とします。なお、カタログやフライヤー等で商品・サービスを案内しているページへの掲載は、制限つきで可とします。

※販売促進（商品紹介）と直接紐づいておらず、2025国際協同組合年についての説明が併記されている場合に限り、使用可。ロゴ単体での使用は不可。

Q. 内部向け会議・研修資料等の中で、ロゴ単体で使用することは問題ありませんか？

A. 問題ありません。

※なお、【2025国際協同組合年ロゴ（日本語版）使用にあたっての留意事項】を必ずご確認ください。

Q. 外部向けの広報誌などで、ロゴを使用しても良いですか？

A. 問題ありません。

※IYC2025 ロゴを自組織のロゴ・組織名と並べて表示する際は、自組織のロゴ・組織名の近くに「（自組織名）は 2025 国際協同組合年に賛同しています」または「（自組織名）は IYC2025 に賛同しています」を表記してください。

例：



【その他】

Q. ロゴは何のために使用しますか？

A. 以下の、2025国際協同組合年の活動目標のために使用します

※①協同組合に対する理解を促進し、認知度を高めること

②協同組合の事業・活動・組織の充実を通じてSDGs達成に貢献すること

③地域課題解決のため協同組合間連携や様々な組織との連携を進めること

④国際機関や海外の協同組合とのつながりを強めること

⑥2025国際協同組合年への国連事務総長メッセージビデオ(日本語字幕)を公開しました

<https://www.japan.coop/wp/17306>

* ICAのYoutubeチャンネルの西仏字幕付きビデオはこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=xpmuPCiqUWU>

英語原文	和訳
<p>(date, title) 25 November 2024 Secretary-General's video message to the International Cooperative Alliance Global Conference</p>	<p>(日付、表題) 2024年11月25日 国際協同組合同盟（ICA）世界会議に向けた事務総長ビデオメッセージ</p>
<p>Dear friends,</p> <p>Cooperatives like the ones you represent demonstrate the importance of standing together to forge solutions to global challenges.</p> <p>Hailing from more than 100 countries, you are driving development across communities large and small.</p> <p>Fighting poverty and social exclusion.</p> <p>Strengthening food security.</p> <p>Helping local entrepreneurs access national and international markets.</p> <p>And so much more.</p> <p>Your united efforts are essential, as our world confronts complex challenges and strives to advance the Sustainable Development Goals.</p> <p>You can be sure that we will continue to call on governments to recognize your critical work through national budgets and development plans...</p> <p>And to arrive at next year's World Summit for Social Development with solutions that can spur progress for all people.</p> <p>As your theme reminds us — Cooperatives Build a Better World.</p> <p>The United Nations is proud to stand with you in this essential work.</p>	<p>親愛なる皆さま、</p> <p>皆さまが代表する協同組合は、世界的な課題を解決するために団結することの重要性を示しています。</p> <p>100 か国以上で活躍する皆さまは、大小さまざまなコミュニティの発展を推進しています。</p> <p>貧困や社会的排除と闘い、</p> <p>食料安全保障を強化し、</p> <p>地域の事業者が、国内市場、国際市場にアクセスできるよう支援し、</p> <p>さらに多くのことをおこなっています。</p> <p>私たちの世界が複雑な課題に直面し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け取り組むなかで、皆さまの団結した努力は不可欠です。</p> <p>私たちは引き続き、各国政府に、国家予算や開発計画を通じて皆さまの重要な取り組みを認識するよう呼びかけていきます。</p> <p>そして、今年の世界社会開発サミットで、すべての人びとの進歩を促す解決策を打ち出すべく取り組んでいきます。</p> <p>皆さまのテーマにあるように一協同組合はよりよい世界を築きます。</p> <p>国連は、この重要な取り組みにおいて皆さまとともにあることを誇りに思います。</p>

⑦2025国際協同組合年全国実行委員会代表・副代表の年始動画の提供について

2025年国際協同組合年のスタートにあたり、その周知を目的とした全国実行委員会代表・副代表の年始動画を作成いたしました。動画のダウンロード方法等は下記のとおりです。

1. 動画のダウンロード方法

以下のURLまたは二次元バーコード(QRコード)から、ギガファイル便にアクセスいただき、動画をダウンロードしてください。



「2025国際協同組合年への国連事務総長メッセージビデオ」もこちらからダウンロードできます。まとめてダウンロードする場合は、DLKEYの欄に iyc2 の4文字を入力してください。

(保存期限は1/10までとなっていますのでご注意ください)

<https://59.gigafile.nu/0112-2a4e14f8df48aaefacca3ac94239af89>

2. 日本協同組合連携機構のホームページ(ダウンロードできません)

JCAのホームページ「会議・研修会資料等／会員専用コンテンツ」内の「会員専用コンテンツページ」に同じ内容のYouTube動画を格納していますのでご覧ください。(2025年1月1日に一般公開します)

https://www.japan.coop/wp/member/limited/iyc2025_newyear

※パスワード jcmember3

⑧2025国際協同組合年に賛同する個人・団体の名簿を公開しました

2025国際協同組合年全国実行委員会では、協同組合を評価し、協同組合と関わりを持たれ、2025国際協同組合年の趣旨に賛同される個人・団体を広く各方面から募り、社会に発信する取り組みを進めています。この度名簿をウェブサイトで公開しました。今後さらに賛同の輪を広げていきます。

【2024年12月9日時点】(50音順・敬称略)

<https://www.japan.coop/iyc2025/sponsor.php>

【個人】

岩垂弘 ジャーナリスト

伊丹謙太郎 法政大学連帯社会インスティテュート教授

宇都宮健児 弁護士、反貧困ネットワーク代表

内田聖子 アジア太平洋資料センター(PARC) 共同代表

内山節	哲学者、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科客員教授
大高研道	明治大学政治経済学部教授、協同総合研究所理事長
大塚忠義	早稲田大学商学学術院大学院会計研究科教授
岡田太	日本大学商学部教授
小口広太	千葉商科大学人間社会学部准教授
小澤竹俊	一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会代表理事
恩蔵三穂	高千穂大学商学部教授
加藤彰彦	沖縄大学名誉教授
北川太一	摂南大学教授
工藤律子	ジャーナリスト
小関隆志	明治大学教授
小山良太	福島大学教授
斎藤縣三	NPO法人共同連理事長
斎藤幸平	東京大学大学院総合文化研究科准教授
斉藤弥生	大阪大学大学院人間科学研究科「福祉社会論」研究室教授
指出一正	ソトコト編集長
椎川忍	一般財団法人地域活性化センター常任顧問（総務省／地域おこし協力隊）
生源寺眞一	公益財団法人日本農業研究所理事・研究員、東京大学・福島大学名誉教授
神野直彦	東京大学名誉教授
炭谷茂	恩賜財団済生会理事長、ソーシャルファームジャパン代表
関英昭	青山学院大学名誉教授
竹端寛	兵庫県立大学環境人間学部教授
田中夏子	協同総合研究所理事、農園「風と土」園主
田中優	未来バンク事業組合理事長、ap bank監事
谷川孝美	日本大学商学部講師
田畑稔	大阪経済大学名誉教授
崔桓碩	八戸学院大学地域経営学部准教授
辻信一	NGOナマケモノ倶楽部代表
津止正敏	立命館大学名誉教授・男性介護ネット事務局長
寺脇研	学校法人瓜生山学園京都芸術大学（旧京都造形芸術大学）教授
富沢賢治	一橋大学名誉教授
中北浩爾	中央大学法学部教授
原田晃樹	立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科教授
広井良典	京都大学こころの未来研究センター教授
藤井敦史	立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ福祉学科教授
藤原辰史	京都大学文科学研究科准教授
古沢広祐	國學院大學研究開発推進機構客員教授
堀田聰子	慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授
増田佳昭	滋賀県立大名誉教授
松本典子	駒澤大学経済学部教授

丸山茂樹	社会的連帯経済を推進する会
御厨貴	東京大学先端研フェロー
宮負賢治	大原幽学記念館（旭市教育委員会）館長
宮崎隆志	北海道大学名誉教授
宮地朋果	拓殖大学商学部教授
向井清史	名古屋市立大学名誉教授
向谷地生良	社会福祉法人浦河べてるの家理事長
山崎史郎	内閣官房参与（社会保障・人口問題担当）、日本医療大学客員教授
山田火砂子	映画監督、脚本家、女優
山田實	NPO法人釜ヶ崎支援機構理事長
米山高生	一橋大学名誉教授

【団体】

NPO法人参加型システム研究所
 公益財団法人日本障害者スキー連盟
 公益財団法人日本ユニセフ協会
 社会的連帯経済を推進する会
 東京基督教大学

⑨2025国際協同組合年事業を一覧で見られるようにしました

2025国際協同組合年全国実行委員会では2025国際協同組合年の趣旨を踏まえ実施される事業を対象に「2025国際協同組合年事業」としての認定・後援を行っています。

この度ウェブサイトにおいて一覧で見られるようにしました。

<https://www.japan.coop/iyc2025/certified.php>

各協同組合が実施する取り組みにつきまして、2025国際協同組合年事業への認定・後援の申請をお願いします。

⑩協同組合振興研究議員連盟総会において協同組合の振興に向けた国会決議の採択を要請しました

2025国際協同組合年全国実行委員会は、12月11日に衆議院第二議員会館で開催された超党派の協同組合振興研究議員連盟（森山裕会長）総会で、「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る国会決議」の採択に向けた要請を行いました。

同議連の山田俊男幹事長は「国会決議に向けて尽力したい」「協同組合の振興に向けて、JCAや各協同組合の皆さんと力を合わせて尽力したいと考えております」と述べました。

なお、同議連の小山展弘事務局長進行のもと、決議案は議連として了承され、「国会決議採択に向け各党各派で検討いただく」こととなりました。

国際協同組合理年に当たり協同組合の振興を図る決議案

国際連合は、2023 年12 月の総会において、協同組合を振興し、持続可能な開発目標の実施と社会・経済開発全体に対する協同組合の貢献に対する認知を高めるため、2025 年を「国際協同組合理年」とする旨決定した。

また、政府は、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」において、「協同組合をはじめ、地域の住民が共助の精神によって参加する公共的な活動を担う民間主体が、各地域に山積する課題の解決に向けて、自立と共生を基本とする人間らしい社会を築き、地域の絆を再生し、SDGs へ貢献していくことが期待されている」と表明している。

よって政府は、次の基本的考え方の下に協同組合の振興に取り組むべきである。

- 一 協同組合に関する様々な施策を企画立案し、及び実施するに当たっては、国際連合の「協同組合の発展のための支援的な環境づくりをめざすガイドライン」（2001 年）及びILO（国際労働機関）の「協同組合の促進に関する勧告」（2002 年）に留意するとともに、ICA（国際協同組合同盟）の「協同組合のアイデンティティに関するICA 声明」（1995 年）によって定められた協同組合の定義、価値及び原則を尊重すること。
- 二 協同組合が相互扶助の精神に基づき地域社会の持続可能な発展のために活動している点を重視し、持続可能な地域社会づくりに当たっては、その有力な主体として協同組合を位置付けること。
- 三 現代日本の経済社会において公共部門や営利企業ではない民間非営利組織が果たし得る役割を重視し、多くの人々が組合員として民主的に管理運営する民間非営利組織である協同組合の発展に留意すること。

右決議する。



国会決議の実現に向け要請する山野徹代表

⑪ SNSを活用した情報発信を始めます

2025国際協同組合年のスタートにあたりSNSを活用した情報発信を始めます。

1. 2025国際協同組合年全国実行委員会公式アカウント

2025国際協同組合年全国実行委員会ウェブサイトの記事をアップします。

【Instagram】 アカウント名：2025国際協同組合年全国実行委員会
ユーザー名：IYC2025_Japan_Committee

【Facebook】 アカウント名：2025国際協同組合年全国実行委員会

【X】 アカウント名：2025国際協同組合年全国実行委員会
ユーザー名：@IYC2025Japan

2. 「協同組合100のストーリー～IYC2025～」アカウント

協同組合全国組織の若手職員でつくるチームが、身近にあるいろいろな協同組合のことや国際協同組合年に関連することなどを発信します。

【Instagram】 アカウント名「協同組合100のストーリー～IYC2025～」
ユーザー名 coops_100stories

いずれも#IYC2025、#2025国際協同組合年、#coopsyearなどのハッシュタグを付けて発信します。

⑫ 2025 国連国際協同組合年、ニューデリーでスタート



提供：ICA

11月25日から29日にかけてインドのニューデリーで開催された国際協同組合同盟（ICA）世界協同組合会議・総会において、2025 国際協同組合年が正式に発足しました。

会議には 100 カ国以上から代表団が集まり、協同組合がいかにしてすべての人の繁栄を築くかについて、4 つのテーマ「協同組合を支援する政策と経済システムの実現」「目的意識を持ったリーダーシップの育成」「協同組合のアイデンティティの再確認」「公正、平等、そしてレジリエントな未来の形成」に焦点を当てて議論が行われました。



提供：ICA

3,000 人以上が参加した発足式典ではグテーレス国連事務総長がビデオメッセージで演説し、「皆さまが代表する協同組合は、世界的な課題を解決するために団結することの重要性を示しています。」

「100 か国以上で活躍する皆さまは、大小さまざまなコミュニティの発展を推進しています。貧困や社会的排除と闘い、食料安全保障を強化し、地域の事業者が、国内市場・国際市場にアクセスできるよう支援し、さらに多くのことを行っています。」「私たちの世界が複雑な課題に直面し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け取り組むなかで、皆さまの団結した努力は不可欠です。」「国連は、この重要な取り組みにおいて皆さまとともにあることを誇りに思います。」と述べました。



提供：ICA

インドのモディ首相は基調演説を行い、同国において協同組合が果たす重要な役割を強調しました。インドには 80 万もの協同組合があり、その中でもインド農民肥料協同組合（IFFCO）は、一人当たり GDP に換算した売上高で世界最大の協同組合であることに言及しました。

「インドにとって、協同組合は生活の一部です。」

「全世界にとって協同組合はビジネスモデルですが、同時に協同組合は私たちの文化の基礎で

もあります。ライフスタイルなのです。首相は、インド政府と協同組合のパートナーシップがいかに持続可能な成長の鍵であるか、そしてこの成長がいかに「人間中心の方法で捉えられるべきであるか」を述べ、「協同組合の重要性は法律や規制にとどまるものではなく、それを超えていかなければならない」と述べ、「協同組合精神は国の生命となる」と主張しました。

そして国連が 2025 年を国際協同組合年と宣言したことに感謝し「この国際協同組合年に、私たちは協同組合精神に力を与えます。私たちはこの協同組合精神で前進し、力を得て、繁栄します。」と締めくくりました。



会議に先立ってICA理事により行われた IYC2025旗の掲揚式（提供：ICA）



全体会で日本の協同組合運動について、活動が盛んな地域として北海道を挙げ報告する山野徹 JA全中会長



北海道の協同組合の取り組みを映写するパネル



分科会「世界の政策に協同組合を位置付ける」で報告する中野理ワーカーズコープ連合会理事・事務局長（提供：ICA）



分科会「経営層リーダーシップの育成：ビジネスからの視点」で報告する小林寛史アジア農協振興機関（IDACA）常務理事



分科会「協同組合事業における価値：大規模協同組合からの視点」で報告する新井ちとせ日本生協連副会長



全体会「協同組合のアイデンティティに関するICAグローバル協議からの視点」で報告する前田健喜JCA CI・国際・研究チーム部長



分科会「教育機関における協同組合：実践とリーダーシップを通じて協同組合アイデンティティを強化する」で報告する伊藤隼己全国大学生協連執行役員（学生委員）



分科会「答えとしてのレジリエンス：協同組合による苦難の克服に関するケーススタディ」で報告する稲村浩史こくみん共済coop常務理事

⑬全国各地の2025国際協同組合年の取り組み

● 徳島県で第3回賀川豊彦ゆうあいフェスタ開催～多彩な催しに加えJCAから講演も～

11月9日から11月16日にかけて、「第3回賀川豊彦ゆうあいフェスタ」が、「賀川豊彦ゆうあいフェスタ実行委員会」（徳島県の勤労者福祉ネットワーク、JAグループ、生協、ワーカーズコープ、労金などが参加）、鳴門市賀川豊彦記念館および賀川豊彦記念・鳴門友愛会の3者共催で開催されました。

期間中、JAや生協がブース出展したオープニングセレモニーをはじめ、賀川豊彦「死線を越えて」の上映会、生協職員でもあった落語家ゴスペル亭パウロさんによる落語会、賀川豊彦ゆかりの地を巡るバスツアーなど様々な催しが行われました。

また、12日に開催された県民フォーラムでは、JCAの青木連携推進マネージャーが「国際協同組合年に向けて一日本の協同組合間連携の実践―」と題して、協同組合連携の事例や2025年を国際協同組合年とした背景など説明しました。講演を受けて、徳島労福協の参加者からは「2025年に設立50周年を迎える。国際協同組合年と連動し、より活発に活動していきたい」と力強い発信がありました。



ゆうあいフェスタには子どもが多数参加



今回からはじめてブース出展した協同組合も



JICAが出講した県民フォーラム



ゆうあいフェスタ実行委員会によるご挨拶



県民フォーラムに参加された皆さま

● 福島県で 2025 国際協同組合年認定事業「LOVE で始めよう！IYC～まずはお互いを知って学ぶことから～」が開催されました

2024 年 11 月 19 日、2025 国際協同組合年認定事業第 2 号として「LOVE で始めよう！IYC～まずはお互いを知って学ぶことから～」が福島県で開催されました。このイベントは福島県生協連組合員活動委員会・JA 福島女性部協議会・福島県漁協女性部連絡協議会の共催で行われ、地産地消ふくしまネット（福島県の協同組合連携組織）等が後援しました。福島市内をメイン会場にいわき市と会津市のサテライト会場をオンラインでつなぎ、各組織の組合員・女性部の活動リーダーを中心に 170 人が参加しました。

各組織の活動報告の後、日本生協連の新井ちとせ副会長の講演が行われました。講演では、組合員活動で大切にしたいことや国際協同組合同盟アジア太平洋地域（ICA-AP）の女性委員会の活動、「組合員の願いや想いを実現すること」「より良い世界をつくること」を共通点に、協同組合は世界中でつながっていることなどが語られました。講演の合間には小グループの話し合いも行われ、場の空気は次第にほぐれていきました。続いて JCA の亀田篤子マネージャーの進行で「協同組合のいいと思うこと」「協同組合で一緒にできたらいいな」をテーマに、同じグループで交流しました。各組織それぞれの活動から得意なことを持ち寄るなど様々なアイディアが出され、生協・農協・漁協と所属は異なっても、より良い地域づくりを目指す気持ちを一つにし、地域のつながりを強める貴重な機会となりました。



新井日本生協連副会長の講演



福島会場の様子



グループ交流の様子

● 埼玉県で「2025国際協同組合年埼玉実行委員会」が発足 ～47団体で結成～

11月21日（木）、埼玉県内の協同組合・協同組織47団体が集まり「2025国際協同組合年埼玉実行委員会発足式」が開催され「2025国際協同組合年埼玉実行委員会」（以下、実行委員会）が結成されました。

発足式では、呼びかけ人である埼玉県農業協同組合中央会の坂本富雄会長が挨拶を行い、同じく呼びかけ人である埼玉県生活協同組合連合会の吉川尚彦会長理事が実行委員

会発足の経過報告と、規約および実行委員会の今後の取組計画を提案し、承認されました。

また、来賓として挨拶された埼玉県の大野元裕知事は「各協同組合は、持続可能な社会を構築するためにさまざまな取り組みを行っている。協同組合年が県内での協同組合の重要性と価値を広く知っていただく素晴らしい機会となることを期待します」と述べられました。

発足式に続いて、記念講演が行われ、JCAの比嘉専務が「2025年、協同組合年がもうすぐ、やってくる」と題する講演を行いました。今後は、2025年早々に第2回の実行委員会を開催して、取組計画の具体化が進められます。



坂本会長のあいさつ



来賓の大野知事のあいさつ



比嘉JCA専務理事の講演

● 労済労連第16回重点課題討論集会～こくみん共済coopグループの労働組合執行部にIYC2025の取り組みを呼びかけ～

2024年11月30日（土）、労済労連（こくみん共済coopグループの労働組合9単組が加盟）が主催する「第16回重点課題討論集会」が開催され、JCA協同組合連携第1部の横溝部長が講師として登壇しました。

この集会は、政策課題についての理解を深めることで、労働組合執行部の力量向上を図ることを目的としています。当日は、会場とオンラインを合わせて約150名が参加しました。

講演では、初めに協同組合の規模や法体系、歴史的な背景、そして労働者自主福祉運

動との関わりについて解説しました。次に、最近の動向として、協同組合アイデンティティの改定に関する議論や、2025年の国際協同組合年（IYC2025）について説明し、最後に、共済を取り巻く環境として、アメリカの保険業界から共済がどのように見られているかについて、現地の業界団体を訪問して得た内容を紹介しました。

締めくくりに、IYC2025を職員が自らの言葉で協同組合や共済を語り、理解者を広げること社会全体に協同組合や共済の意義を浸透させていく機会として活用しようと呼びかけました。



● 和歌山県生協連 第34回生協大会で講演

2024年12月5日、わかやま市民生協本部E＊KAOホールにおいて、和歌山県生活協同組合連合会主催の第34回生協大会が開催され、JCAの伊藤治郎常務理事が記念講演を行いました。

「協同組合のアイデンティティに関するICA声明について考える－2025国際協同組合年に向けて－」という演題で、国連が2025年を2回目の国際協同組合年（IYC2025）と定めた意義や日本におけるIYC2025に関する活動計画、生協・協同組合の価値を多くの人に知っていただくためには組合員・役職員が協同組合のアイデンティティについて改めて学ぶことが重要であることを説明しました。

参加者からは初等・中等教育での協同組合に関する教育が重要である一方で、若い世代に協同組合の価値を伝えることの難しさが意見として出されました。また、国際協同組合年に組合員としてできることは何か、といった質問も出されるなど、限られた時間でしたが活発な意見交換をすることができました。

